

泰日協会学校・泰日協会学校シラチャ校 熱中症対応ガイドライン

タイ政府の指針はないため、日本の環境省の指針（下記：日本の環境省の HP から抜粋）に基づいて対応する。

暑さ指数 (WBGT)	日本生気象学会指針		日本スポーツ協会指針
	注意すべき生活 活動の目安	日常生活における 注意事項	熱中症予防運動指針
21～25℃	強い生活活動で 起こる危険性	一般に危険性は少ないが 激しい運動や重労働時には 発生する危険性がある。	注意（積極的に水分補給） 熱中症による死亡事故が発生する 可能性がある。熱中症の兆候に 注意するとともに、運動の合間に 積極的に水分・塩分を補給する。
25～28℃	中程度以上の生 活活動で起こり 危険性	運動や激しい作業をする 際は定期的に十分に休息 を取り入れる。	警戒（積極的に休憩） 熱中症の危険が増すので、積極的 に休憩をとり適宜、水分・塩分を 補給する。激しい運動では 30 分 おきくらいに休憩をとる。
28～31℃	すべての生活活 動で起こる危険 性	外出時は炎天下を避け、屋 内では室温の上昇に注意 する。	嚴重注意（激しい運動は中止） 熱中症の危険性が高いので、激し い運動や持久走など体温が上昇 しやすい運動は避ける。10～20分 おきに休憩をとり水分・塩分の補 給を行う。暑さに弱い人は運動を 軽減または中止。
31℃以上		高齢者においては安静状 態でも発生する危険性が 大きい。外出はなるべく避 け、涼しい室内に移動す る。	運動は原則中止 特別の場合以外は運動を中止す る。特に子どもの場合は中止すべ き。

- ① WBGT (Wet Bulb Globe Temperature) 測定器で校内（直射日光が当たる場所・地上 90cm 付近＝低学年児童の頭の位置）の数値を測定する。
- ② 上記を基本として、時期（例えば学期開始時には子供の身体がまだ暑さに慣れていないことを考慮する必要がある）や活動の種類も考慮に入れて、管理職教員が適宜判断を行う。